

表2の解説
 上段の棒グラフは本市の被保険者一人当たりの医療費と県内40市平均の一人当たりの医療費の推移を表しており、双方医療費が上昇傾向にある中、本市の医療費は県内平均を上回っていることが分かります。また、下段の棒グラフは本市の被保険者一人当たりの保険税と県内40市平均の一人当たりの保険税を表しており、県内平均はほぼ横ばいの状況でありながら、本市の保険税は減少傾向にあり、近年は県内平均を下回っていることが分かります。その要因としては、先進医療や高額新薬の推進により医療費が増加し、高齢化に伴う所得の低下により保険税が減少していると考えられますが、本市はその傾向が顕著となっております。

表1の解説
 国保被保険者数は、平成22年度と平成28年度を比較すると約4.0%（1,280人）減少している（1,200,981人、H28＝1,190,768人）と比較しても急速に減少しているのが分かります。また、後期高齢者医療被保険者数は約30.6%（3,084人）増加している、高齢化が進んでいることも分かかります。

医療費の削減のためにはどうしたらいいの？

■特定健診・特定保健指導を受診し、
疾病予防と早期発見！

特定保健指導により生活習慣を見直すことで疾病を予防しましょう。また、特定健診により疾病の原因に気づき、早期治療を行うことで、将来の健康な生活につながるとともに、医療費削減にもつながります。

■ジェネリック医薬品の利用を検討しよう！

特許が切れた薬を、他のメーカーが製造・販売したもので、最初に作られた薬と同じ薬効で低価格な薬です。医療費の削減だけでなく、家計にもやさしいジェネリック医薬品を利用しましょう。

国保財政の健全化に向けての課題は？

平成28年度の歳出額約145億5千3百万円のうち、医療費は全体額のおよそ60%にあたる約87億2千9百万円となつていきます。

医療費別に見ると、総医療費が高い疾病は「高血圧性疾患」「心不全」「糖尿病」の順となつており、生活習慣病が多いことが分かります。

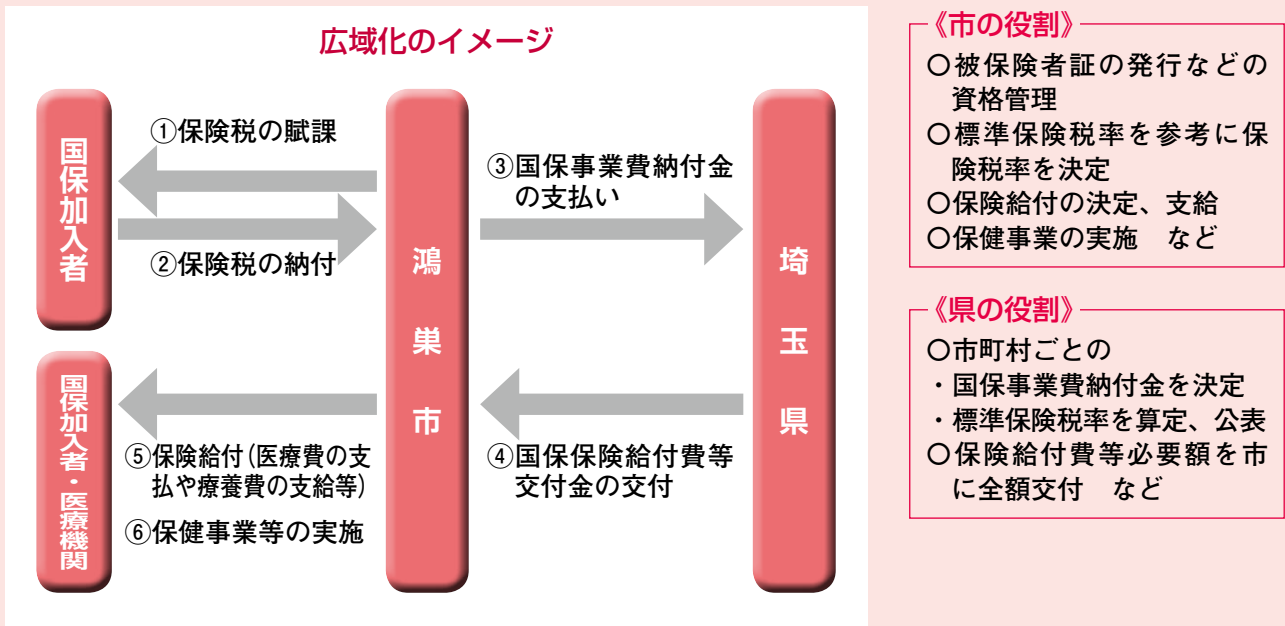
医療費の多くを占める生活習慣病は日頃の健康づくりへの心がけ次第で改善することが出来ます。

こうしたことから、国保財政の健全化に向けては「医療費の削減」と「健康づくり」が課題となっております。

どうしたらいいだろう？

平成30年4月から国民健康保険制度が変わります

国民健康保険は現在、市町村それぞれが保険者となって運営していますが、平成30年度からは、県が財政運営の主体となり、制度の安定化を目指します。



市の国保は、被保険者の構成、ぜい弱な財政基盤などから、これまで赤字補填として市民の皆さんから納付いただいた市税等でまかなっておりました。平成28年度は市税等による補填はしていませんが、約6億1千7百万円の基金を取りくずすことにより事業運営を行っています。

今後は、県と共に「埼玉県国民健康保険運営方針（平成29年9月26日策定）」に基づき、医療費適正化の一層の取組促進を図り、事務の効率的な運営により赤字の解消・削減に取り組んでいきます。

注意事項／○各種申請や届出などは、従来どおり市の窓口で手続き（療養費の請求や職場の健康保険加入など）を行います ○県と市が共同保険者となりますが、保険税は変わらず市に納めることとなりますので、納税通知書も市から送付されます ○詳細は市ホームページをご覧ください

「健康で元気に暮らせるまちづくり」に向けた市の取組

本市では平成27年10月に「健康づくり都市」を宣言しています。

こうしたことから、いつでも簡単に取り組むことができるラジオ体操やウォーキングを推奨しており、広報かがやき6・7月号の特集で、運動の効果等を紹介しています。

健康づくりの推進には、市民の皆さんが健康を意識し、実践することが必要不可欠です。ぜひこうした取組に参加し、健康づくりに努めましょう。



健康づくり、介護予防のために体を動かそう!

「ラジオ体操」や「ウォーキング」を行うなど、健康的な生活習慣を実践しましょう。

また、介護予防のため地域住民の皆さんと一緒に「のすっこ体操」をはじめてみましょう（広報かがやき8月号で特集）。

健康づくりのためにどうしたらいいの??